

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第9集

(長野県道 1 号線~508 号線)

NO.57 仮面のビーナス(国宝)・縄文のビーナス(国宝)

(長野県道 424 号走破)

NO.58 初めてザゼンソウを見ることが出来ました

NO.59 星糞峠の黒曜石鉱山発掘跡が公開されています

(長野県道 155 号走破)

NO.60 信濃町から鹿教湯温泉(県道 36 号線編→信州新町)

(長野県道 36 号走破)

NO.61 信濃町から鹿教湯温泉(信州新町→県道 12 号編)

(長野県道 12 号走破)(長野県道 172 号走破)

NO.62 中山道妻籠宿と伊那谷をむすんだ大平街道

(長野県道 8 号走破)(長野県道 21 号走破)

NO.63 筑摩野・篠ノ井線より西側の県道紹介

(長野県道 291・292・293・294 号走破)(長野県道 298 号走破)(長野県道 115 号走破)

2020.12.15 岡谷から諏訪を通り茅野方面に国道 20 号線を走り、四賀交差点を左折(県道 424 号線起点)し J R 中央東線のガード下をくぐり、四賀交差点より 300m 程行った旧甲州街道との交点でもある霧ヶ峰入口交差点からは山道に入りました。標高 800m から 1200m まで上がると霧ヶ峰に行く道と県道 424 号(諏訪茅野線)が分かれている所に出ました。やや下りの山沿いの道を進むと、米沢地区(標高 920m)に出た。



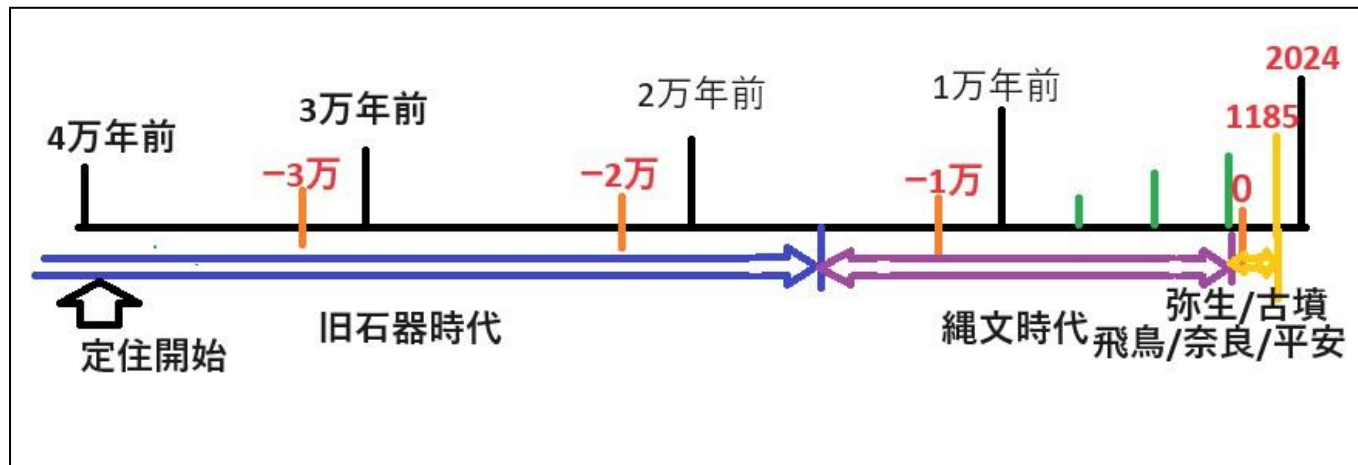
県道 424 号を進むと駒形遺跡の看板があり、そこに足を運んだ。駒形遺跡は、標高 910m、縄文時代の拠点集落跡や多量の黒曜石の鏃(矢尻=やじり)などが発見されている。検出遺構の年代は旧石器時代。縄文時代早期前半(約 9000 年前)から後期前半(4000 年前)、平安時代、中世におよぶ。縄文時



代の竪穴式建物跡 106 棟と、土抗(貯蔵穴・柱穴・墓穴)が多数出土しているほか、旧石器時代の遺物や平安時代の建物跡。中世の遺構などが確認されている。又駒形遺跡は、縄文時代に霧ヶ峰の黒曜石で石器を盛んにつくり、黒曜石流通活動の拠点となった。

県道 424 号線は、国道 152 号線の湯川バイパ

スと交差しましたが工事中でした（2023年3月開通しました）。ちょっと行くと急に道が狭くなり、さらに行くと滝の湯川の川沿いの狭い道になり、そのまま国道152号線と交わりました（県道424号走破）。周辺には、国道152号線を白樺湖方面に少し行ったところに「上之段石器時代遺跡」があり、立ち寄ったが場所のみ表示でした。また県道424号の終点から川をわたると「功德寺」があり、この辺りでは目立つ建物です。ビューナスライン（県道192号）に入り、茅野方面に向かうと、焼肉東山食堂茅野店があり（後で調べたら松本から塩尻峠に向かう国道20号線の中腹にある人気の焼肉店の2号店）、そこを南に入ると「中ツ原遺跡公園」があり、国宝「仮面の女神（ビーナス）」が出土した遺跡で、2000年8月に発掘された状態を再現した施設がある。



2017.4.4「仮面の女神（ビーナス）」を見に尖石縄文考古館に行きました。土偶を見、説明によると「仮面の女神」の愛称をもつこの土偶は、上記「中ツ原遺跡」から出土した、全身がほぼ完存する大形土偶です。高さ34cm、重さ2.7kgあります。顔に仮面をつけた姿を思わせる形であることから、一般的に仮面土偶と呼ばれるタイプの土偶です。今から約4000年前の縄文時代後期前半に作られました。



考古館には、もう一つ国宝の土偶があり、「縄文のビーナス」と呼ばれ、1986

年に棚畑遺跡で出土した。高さ27cm、重さ2.14kgで、頭は頂部が平に作られ、円形の渦巻き文が見られることから、帽子を被っている姿とも髪型でもあるとも言われています。縄文時代中期のものと思われる。



この土偶は、八ヶ岳山麓の土偶の特徴と造形美を合わせもつことや、当時の精神文化を考えるためにも貴重な学術資料であることから、平成7年（1995年）に縄文時代の遺跡からみつかったもののなかで初めて国宝に指定されました。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.3.12

初めてザゼンソウを見ることが出来ました

澤田 繁 著

2024.3.12 天気予報では、一日中雨から雪ではあったが、家を出た時は既に雪だったが、標高で 150m 程下に来たら雨に変わった。塩尻北インターで乗り飯田インターで降り、国道 153 線を伊那方面に、県道 18 号に出て天竜川を渡ったところで県道 18 号と別れ、弁天橋東交差点から県道 83 号線に入る。交差点から 200m 進んだところを左折してから 1.4km 程で右折して道なりに進む、さすがにナビを使うが入り口が良く分からず一度左折して虎岩地区を走ったが、結構入り組んでいたの迷ってしまい、本道(2車線道路)に戻りました。ゆっくりと、なにか案内を探しながら進むと、小さいが案内を発見して左折し、虎岩地区の道を登っ



て行きました。さらに、ちょっとした案内を発見し左折したが、さらに道は狭くなり不安だったが、何とか 150m くらい進むと駐車場がありそこに車を止めてほっとした。

駐車場の向こうに見える谷が、「ザゼンソウ」の自生地、100m 先とかいてあったので、雨で足元が悪そうだったが、初めてのザゼンソウで躊躇なく歩き始めました。最初に見たのは小ぶりの水芭蕉で、花はまだでした。棒がたつエリアに来ました、棒の近辺を探していたらついに発見しました(初めてザゼンソウを見まし



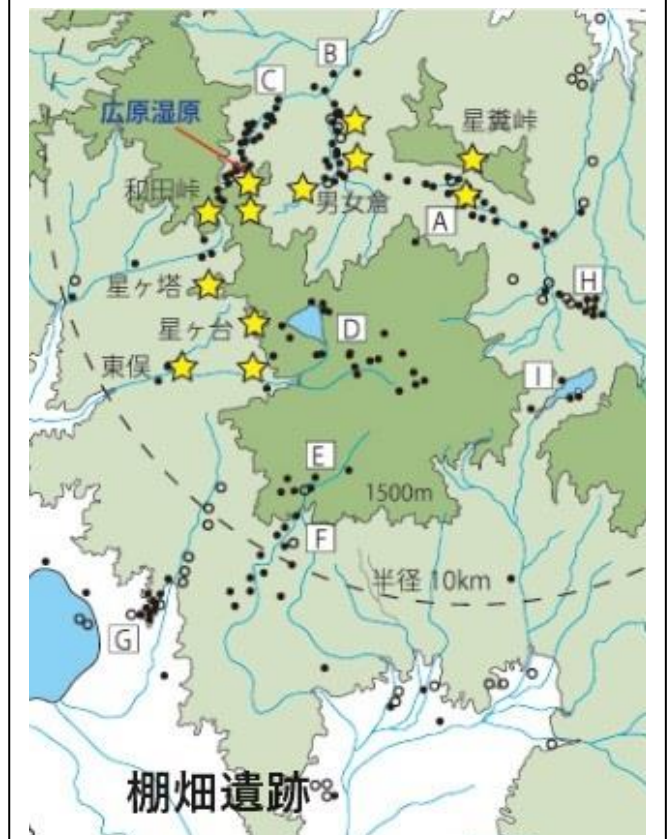
た)。地区の人が守っているこの自生地、少し支援金を置いて後にしました。

三遠自動車道から帰りましたが、途中から雪の高速、不安でしたがいい経験でした。

2020.8.18 美ヶ原と県道 155 号(男女倉長門線)を走りに出かけました。美ヶ原(王ヶ頭)にいき戻って、三才山トンネルを抜け国道 254 号線を走り、国道 152 号にのり替え、白樺湖方面に進む、途中古代ロマン体験館の横を通り、「だったんそばレストラン緑の館」でそばを食べ、その後県道 155 号線の入口(標高約 1200m)に到達した。谷間を登り緩やかな斜面を行くと、スキー場のグレンデがありその先を右に行くと「星



くずの里たかやま黒曜石体験ミュージアム(標高 1400m)があり、入館し黒曜石などを見学した。すぐそばにある「明治大学黒曜石研究センター」のネットに右のような貴重な図があり、前掲載(第9集 N057)とつながる部分を切り取って掲載しました。霧ヶ峰周辺は日本でも質の良い(透明度が高い等)産地であった。☆印がおもな産地であって、その中で星糞峠は日本史跡に指定されており、近年黒曜石鉱山の発掘に成功した。この遺跡は「黒曜石鉱山展示室・星くそ館」として、2022年7月に公開された。説明によると、地下 5m の深さに土砂崩れ防止の木柵が当時そのままに残されていて、周囲には木製の堀り具や、採掘の無事を祈った漆塗りのお守りも発見されたとある。それが直に見られる施設の様です。「星くずの里たかやま黒曜石体験ミュージアム」行った時には、まだこの施設が出来ていなかったが、ミュージアムから標高差 100m の山道を歩いて登るようです。(約 30 分)



図の○印は縄文時代の遺跡の場所で、●印は、縄文

時代より以前にさかのぼって、後期石器時代の遺跡の場所です、[A]は鷹山・[B]は男女倉・[C]は和田峠・[D]は八島・[E]は池のくるみ・[F]はジャコンバラ・[G]は諏訪湖東岸・[H]は割橋・[I]は池の平。

ミュージアムを後にして、県道 155 号に戻り、進んで行くと、しばらくして下りが始まり標高 1200m まで

下ると国道 142 号線に出た（県道 155 号走破）。国道 142 号線の新和田トンネルの料金所のところに出たが、2022 年 4 月新和田トンネルが無料化されたので、現在は料金所のあとかたもない。国道 142 号線を佐久方面に下っていく、和田宿の長和町農産物直売所の横を通り過ぎ、5km 程行くと 152 号線との交点に到達し、1 周した。さらに縄文土器を見るために右折し、資料館に向かった。

「長和町資料館原始古代ロマン体験館」に入り、縄文土器を觀賞した。香炉型土器（中道遺跡）・中道遺跡は大仁反遺跡に並ぶ千曲川源流域の拠点的な遺跡である。遺跡から出土した香炉型土器は、両腕に子供を抱いた母の胎内に灯りをとすというデザイン、なお中道遺跡の場所は、国道 152 号線を上田方面にいき、国道 254



号線との交点手前の道の駅マルメロの駅ながとの東側にある。明神が原の土偶・頭だけの土偶でした。



2024. 3. 19 岡谷から新和田トンネルを通り、和田宿の長和町農産物直売所で<てんぷらそば>を食べました。前にもなにか食べた時にも量が多い感じのする食堂です、農産物も前にくはちく（淡竹）を買った時も値段が手ごろの所のイメージがある。なんといっても<黒曜石>が手頃の値段で売っている場所でもある。この日は上田アリオに寄り帰りました。

【付録】

三十三番土偶札所めぐり・「星降る中部高知の縄文世界」の企画で、山梨・長野両県にある 17 施設をめぐり、33 点の「御朱印」を押してもらおう。

信濃霧山ダッタンそばの特徴・一般にダッタンそばは苦み強く食用には適さないと言われているが、高い成分（特にポリフェノール）を保持しながら、苦みがほとんどない珍しいそば。標高 800m から 1400m の霧の降る高原で、農薬・肥料を使わず栽培している。



歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.3.22

信濃町から鹿教湯温泉(県道36号線編→信州新町)

澤田 繁 著

(長野県道36号走破)

2020.5.28 信濃町インターで降りて、時々利用するすぐ横の道の駅しなのの横を通り国道18号線に出ました。国道18号を長野方面に少し行くと一茶記念館入口の交差点に到達した。信濃町の柏原地域は、私には「小林一茶」で知られたところで、日本海や黒姫・妙高スキーに行く道で「小林一茶の旧宅」の横を通った。調べると北国街道の「柏原宿」の場所でもある。又道も、南下する北国街道と、東に行く飯山道、西に行く戸隠山道の交差点として重要な場所だった。

県道36号線(信濃信州新線)は、戸隠山道と一致している。起点は、国道18号だったのが、現在は野尻湖の方に800m延伸され県道360号線と交わるところが起点になっている。

国道18号線の一茶記念館入口交差点を右折し、立ち寄った事がない「一茶記念館」(柏原宿の模型が展示してあるので今度は寄ります)の横を過ぎ、しなの鉄道「黒姫駅」の近くの陸橋を渡り西に進む。

36号線の近くに大学の友人の家があるので、昼飯をごちそうになり出発。これから山道に入ります。この地点標高700mから黒姫山と飯縄山の間の谷を鳥居川沿いに登って行く、1200mを越えたところに平原が広がり近くの駐車場にて休憩。

この平原周辺には、歩きが必要な場所が多くある。数年前昼飯をごちそうになった友人宅でミニ同級会を行った際、友人が皆を連れてきたところが、「戸隠森林公園」の池の方で、そこから公園内を歩き、「戸隠神



社奥社」に向かった。私は奥社までは行けず、手前の杉並木が見えるところで、みんなの帰るのを待っていた。「戸隠スキー場」は学生時代に滑りに来たところだ。「戸隠神社中社」には 10 年前くらいに、中社駐車場に車を止めて、初めてお詣りしました。

中社からは、下りになりました。中社から宝光社まで下り、バードラインから来た道と交差しました。バードラインは、学生の頃からあった路線で、長野市から戸隠までは、ほとんどこの路線で来ていた。県道 36 号線はこの交差点から鬼無里に向かいます。

戸隠から鬼無里までは、道幅は一定ではなく、2 車線のセンターラインのところは 2 割程度でほとんどが 2 車線センターラインなし（自家用車がすれ違える）で、1 部まだ 1.5 車線のところがあった。

鬼無里方面も下りがつづき、標高 900m の楠川を渡ったところで、峠越えになる。標高 1055m の大望峠^{だいぼう}には展望台（写真下）があり、少し本道から外れるが休憩地点にはいい所でした。そこからは下りの山道がつづきます。標高 800m まで降りると、谷沿いの道になり国道 406 号との交点（標高 700m くらい）に出る。この辺りが鬼無里の中心地。かつては白馬から鬼無里を経て松代や善光寺を目指して東西を結ぶ軍事上も重要路であった。藩政時代に松代藩領の辺縁にあたり、関所があった場所でもある。



「小川村展望広場」があるが立ち寄った事はないが、ネットで冬の鹿島槍が良く見える写真がありました。又、何かと思い出深い「高山寺」も途中にある。高山寺に立ち寄ったのは 10 年くらい前だと思いますが、道から



つづきます。標高 800m まで降りると、谷沿いの道になり国道 406 号との交点（標高 700m くらい）に出る。この辺りが鬼無里の中心地。かつては白馬から鬼無里を経て松代や善光寺を目指して東西を結ぶ軍事上も重要路であった。藩政時代に松代藩領の辺縁にあたり、関所があった場所でもある。

県道 36 号は 200m 程国道 403 号と重複しているが、分岐してすぐ裾花川を渡り小川村に向かった。これから一山越えるのだが、山の頂上近くまでは道が狭い所が多く（以降は 2 車線道路）すれ違いに要注意でした。鬼無里側からは、登りは急で、標高 1000m まで上がる。頂上付近が小川村になります、そこからは緩やかな下りになり、小川村役場付近の標高 480m まで下りはつづきます、役場を過ぎるとすぐ県道 31 号線との交点に到達しました。この下りの道は「小川アルプス道路」と呼ばれており、走りながら比較的標高が高い所からアルプスが見える。「小

見えた三重塔が気になり見学も兼ねてお詣りもした。<「高山寺」は 808 年（平安時代）創健で、征夷大將軍の坂上田村麻呂が戦勝祈願に観音堂を建立し、弘法大師自刻の聖観音菩薩像を安置したのが起源の寺。1195 年に源頼朝によって三重塔が寄進された。現在の三重塔は 1698 年（江戸時代中期）のもの。>この時、「信濃三十三番観音霊場」の御朱印帳を購入した。そして三十三番の札留め所の高山寺から御朱印をもらい、現在 10 箇所近く御朱印をもらい中断中です。

県道 31 号（長野大町線）と交わり、1 km くらい重複し分岐し信州新町に向かう。分岐しすぐに「おやき村」の案内矢印がある。

後日「おやき村」に行きました。2020.6.9 に案内矢印方面にせまい村道（一方通行＝緑）を道なりに進むと「小川の庄縄文おやきの村」に着きました。縄文の竪穴住居風な建物もあり、そこでおやきを食べました。帰りは道も、せまい道（うすみどり）を帰って来ました。



県道 31 号線と分岐し再び山道に入る、信州新町まで一山越えるようだ。2 車線の道を標高 650m くらいになるところがピークで少し行くと山の上の集落（信州新町越道）に出る。ここからは下りになるが、道も 1 車線の狭い道になる。しばらく狭い道はつづくが下りていくと道も 2 車線道路になったり 1.5 車線道路になったりする（改良中のようだ）。国

道 19 号線の信州新町の奈津女橋の信号に出た、長い県道 36 号線の終点です（県道 36 号線走破）。左に曲がると、「信州新町化石博物館」や「焼肉（ジンギスカン）」「道の駅信州新町」があるが、次のシリーズで紹介することにしました。その日は、右に回り、国道 19 号線を 200m 行くと新町交差点（標高 440m）に到達、次回 NO 61 の鹿教湯までの路線である県道 12 号線の起点となる場所を通過し 19 号線で松本まで行き帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.3.24

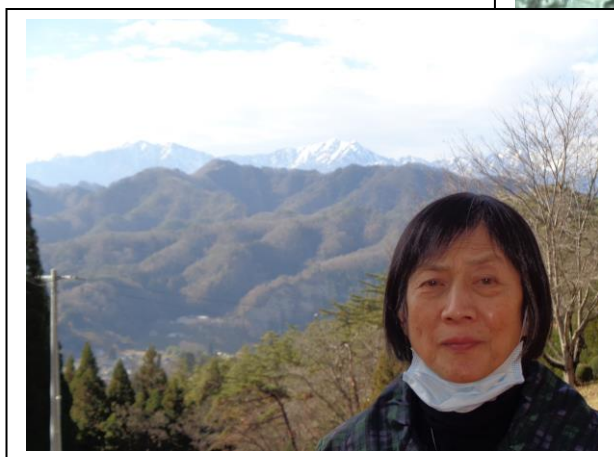
信濃町から鹿教湯温泉(信州新町→県道12号線編)

澤田 繁 著

(長野県道12号走破)(長野県道172号走破)

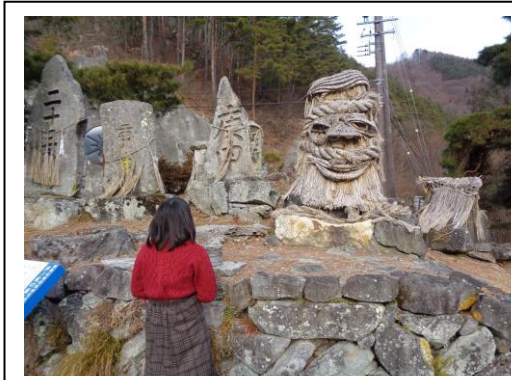
2020.11.24 安曇野インターから国道19号を走り、信州新町の新町交差点(県道12号終点)から再スタート、今日は麻績村まで目指す。犀川にかかる新町橋を渡る、信州新町竹房集落・牧野島集落の道路となっており、犀川に沿っているが、川の崖の上を走っている感じであった。特に川に接する所の道路は狭いままだが、他は2車線が確保されていた。

牧野島から牧田中地区に移る所が標高500mで、「上の平展望台」への入口がある(案内は小さい)、どんな所か行って見る事にした。標高差100mほど登った所にあり、駐車場に車を止めて景色を見た。12号線に戻り、牧田中地区を走ると、昭和31年まであったきらしな更級郡牧郷村の中心地を通り、信州新町中牧地区に入ると、犀川沿いから聖高原に向かう登りになった。大岡までは人家はほとんどない山道で、1部センターライン付きの2車線だが、ほとんどが自家用車がやっとすれ違える道幅の道であった。大岡に入り、人家や耕地があり、県道295号線と交わった後、センターライン付きの2車線になりま

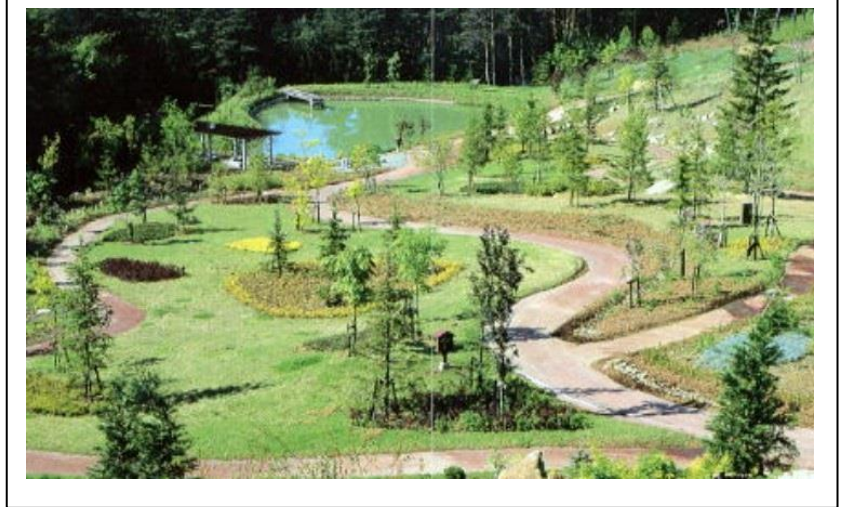


した。大岡(中牧・甲・乙・丙)では標高800m~900mの間の聖高原の中腹(アルプス展望道路)を走る景色の良い道だ。途中「大岡アルプス展望台」に寄り、コーヒーを飲んだりして休憩しました。上の平より標

高が高いため良くアルプスが見えました。又 12 月 29 日には、孫とともに 12 号線横の「芦の尻道祖神祭り会場」に寄り道祖神を見てきました。



麻績村に入りまだ中腹を走ります。一度坂井（旧坂井村）に入り、再び麻績村に入りました。横に 10 数年前に来た「シェンガルテンおみ」がありました。庭の散策とレストランでの食事をした記憶があります。案内によればカナダのブッチャードガーデンをモチーフに造られた施設で、庭園は 7 つのエリアからなり、約 500 種類の樹木や花があります。又サンセットポイントでもあるとの事。この辺から下り



が始まり麻績宿跡のところでは標高 650m になった。県道 12 号は、本町交差点で国道 403 号と交わり、長野道の下を通り、坂北村坂井（旧坂井村）に入りました。篠ノ井線の踏切りを渡り、この日は、坂井楡窪の三差路で県道 12 号と別れ、村道を通り踏切を渡り、篠ノ井線沿いを麻績駅前、麻績インターに乗り帰宅した。

2020. 7. 28 麻績インターで降り、国道 403 号から線路沿いの村道から踏切を渡り坂井楡窪三差路で県道 12 号線に出る。修那羅峠・青木村経由は上田方面に行く時よく使う路でもある。三差路から少し行った所に、農産物直売所「まんだらの里」があり、良く野菜とか天然きのこを買う。横には「そば処さかい」があり、2 度程そばを食べに入りました。この辺から谷間をぬっての登りになる。筑北村坂井の修那羅峠までの道は極端なカーブは少なくスピードが出る区間であるので油断大敵。修那羅峠（標高 914m）手前に駐車場があり、若い時、駐車場に車を止めて、遊歩道を「修那羅の石仏」を見に登った。石仏は安宮神社（標高 1037m）の前に、約 860 体あり不思議な世界であった。修那羅峠手前 3. 5km に、案内に右折方向に修那羅山安宮神社があったのが通るたびに気になっていた。調べると神社の手前まで行けて、駐車場もある。そこから 7 分で神社まで行けるそう。遊歩道では 30 分以上かか



ったので、もう行けないとあきらめていたが、機会あれば行って見たいと思いました。修那羅峠を越えると青木村に入る。しばらくはカーブのきつい下りが続く、カーブも下りも緩やかになると、国道 143 号線との交点に出た、ここから青木交差点（標高 550m）までが県道 12 号線との重複区間になる。この日は、道の駅あおきでおきで休憩し、上田方面に向かった。

2022. 8. 9 坂城インターから県道 160 号を使い仁古田交差点で国道 143 号に出ました。青木交差点を少し行くとくつろぎの湯があり、その先の三差路（県道 172 号＝県道田沢中挟線）を左折し、田沢温泉に向かう、田沢温泉は、石畳の道やその両脇に並ぶ木造建築の旅館など、^{ひな}鄙びた雰囲気の温泉地である。歓楽色はほとんどなく、街中には湯川のせせらぎが流れる。旅館は 5 軒存在する。田沢温泉から山道を登り、標高 1000m のところに「信州昆虫資料館」があった。が休館だったので U ターンした（県道 172 号線走破）



2021. 8. 24 青木交差点から鹿教湯温泉を目指しました。沓掛川をさかのぼるようにして県道 181 号線との交点を過ぎたところで、青木村沓掛地区に入る。川の対岸には沓掛温泉があり、日帰り 1 軒・旅館 2 軒のこじんまりとした温泉である（一度寄り道して通り過ぎました）。県道 12 号は、車線が 2 車線とれている区間をさらに川沿いを登り、ピークの 1. 5 km 手前から道幅が狭くなりピークの標高 900m 近辺で、上田市別所温泉地区に入り、北向観音から来た県道 177 号線と交わり、県道 12 号線と重複して終点までいく、別所地区は 1km くらいで、上田市鹿教湯地区に入り、下っていく。鹿教湯交差点（標高 700m）で国道 254 号線と交わり鹿教湯温泉に到着した（県道 12 号走破）。温泉街に戻り、塩川菓子店で温泉饅頭<かけ湯まんじゅう>を買って食べました。



【付録】（タチアカネ・青木村ホームページより）

タチアカネは、旧長野県中信農業試験場（現野菜花き試験場）で開発され、平成 21 年度に農水省の農林認定品種に指定された、まだまだ本格的な栽培が始まったばかりの品種です。タチアカネの名前は、次の二つの特徴から付けられました。まず、「タチ」は、栽培しているときに倒れにくい（耐倒伏性）ことからです。また、このそばの実の色は、収穫するときには普通のそばのように黒っぽいものになりますが、成長過程の途中の実は赤いところから「アカネ」をとり、「タチアカネ」と名づけられました。見ごろを迎えると、そば畑一面に広がる白い花と赤い果皮のコントラストが楽しめます。

味は、そば本来の風味と甘みが強く、繊細なおそばの味を楽しめます。特に新そばの時期（11 月頃）は、より一層タチアカネの持つ特徴を感じることができます。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.3.25

中山道妻籠宿と伊那谷を結んだ大平街道

澤田 繁 著

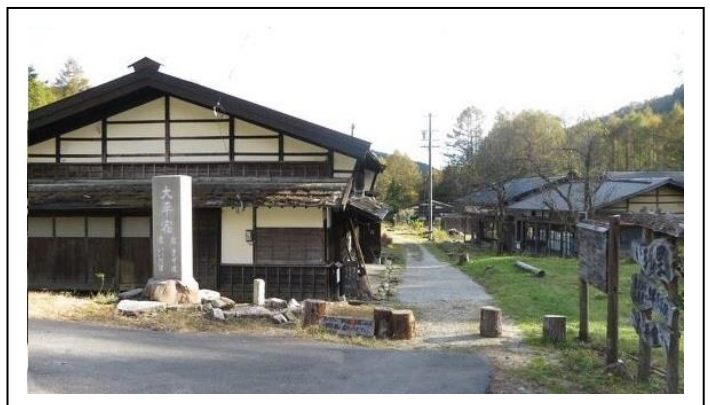
(長野県道 8 号走破) (長野県道 21 号走破)

2022.4.12 飯田山本インターで降り、国道 153/256 号線を昼神温泉方面に向かう。昼神温泉を通過し、清内路トンネルを通り、南木曾町吾妻地域に入り、下っていくと、案内表示に 8 号線が見えたら、そこを入りました(県道 8 号線=飯田南木曾線)。「大平街道」は、江戸時代中期(宝暦 4 年)、伊那谷と中山道の妻籠宿を結ぶため、飯田藩によって建設された街道で、このまま国道 256 号線を進むと、妻籠宿と中山道と交錯するので、大平街道はここまで国道 256 号線に沿って、妻籠宿から登ってきた道で、ここから飯田までは、県



道 8 号線が大平街道となる。標高 880m の 8 号線入口から標高 1358m の大平峠(木曾峠)までは登りで、道幅は広くはないので、すれ違いに注意が必要です。峠にはちょっとしたトンネルがあった。地域も南木曾町から飯田市(大瀬木)に変わる。峠を下っていくと沢沿いの道になり、そのまま大平宿(標高 1160m)に到達した。

大平宿までは、2019.11.26 飯田から一度来た事があったが、その時は、この先(大平峠)は工事通行止めだった。今回は逆方向の大平峠から大平宿に来たので、大平宿から飯田方面に行く、宿場からは標高差 100m 程登った飯田峠を越えて、下りながら沢沿いの道路になる。松川ダムまで下ってくると、工事用ダンプとすれ違うから要注意。山道を抜けて市街地に入ると 2 車線区間が増えてくる。



高速をくぐり、県道 15 号の新線を渡り、飯田線の踏切を渡り、三州街道と交わり(知久町 3・4 丁目交差点)左折し、三州街道を飯田駅前通りの中央通り 3・4 丁目の交差点で、県道 8 号線は終点となる(県道 8 号走破)。そこから飯田駅までは、短い距離だが、県道 21 号(飯田停車場線)となる(県道 21 号走破)。

大平街道は、飯田線が開通した、昭和 2 年(1927 年)までは、飯田から中央線利用のため木曾に出向く街道で利用されていた。また昭和 30 年代に国道 256 号の南木曾から飯田までが開通により、ほとんど使われなくなった。歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.3.26

筑摩野・篠ノ井線より西側の県道を紹介

澤田 繁 著

(長野県道 291・292・293・294 号走破) (長野県道 298 号走破) (長野県道 115 号走破)

2024. 3. 26 自宅を出て唐沢そば集落を通り、県道 25 号線を通って県道 291 号線と交わる三差路まで来ました。今日は完走したと思って、見落としていた県道 292 号線を走る事にした。県道 291 号線を朝日村に向かって進み、朝日村内で県道 292 号と交わった。県道 292 号を山(鉢盛山)の方にしばらく進み鎖川を渡った。隣村に住んでいるが、この地区(針尾)は初めての所だった。鎖川を渡り山の方に進むと 292 号線の終点

御馬越に着いた。御馬越は木曾義仲が山を越えてきた所のような。戻ってよくそばを食べに来る「そば処もえぎ野」(写真次ページ)で温かいとうじそばを食べて帰宅しました。

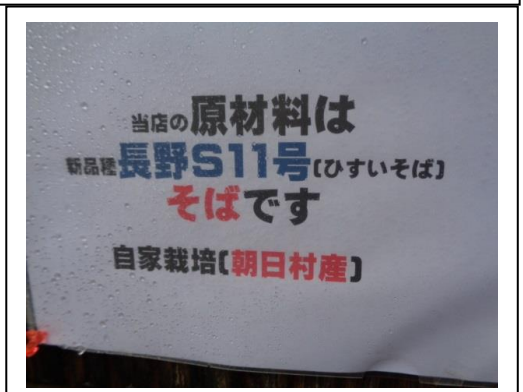
今回は、筑摩野の半分の西部の県道を記す。「筑摩野」松本盆地のうち、梓川よりも南側で、波田地区・山形村・朝日村の西山、塩尻市の南山である長興寺山や比叡の山、松本市の東山である筑摩山地に囲まれた総称である。梓川の北側が良く知られる「安曇野」である。

県道 115 号(松本平広域公園線)は、サッカー場や松本空港がある信州スカイパークの周辺を走る道路である。今井北耕地交差点から空港入口交差点を經由して今井東交差点までの路線。



県道 291 号(新田松本線)は、国道 158 号線の町区東交差点から朝日村新田交差点までだが、山形村アイシティー横と移転した朝日村役場に側線が追加された。

県道 292 号（御馬越塩尻停車場線）は、朝日村御馬越から塩尻駅までの路線で、塩尻駅から国道 19 号線・奈良井川を渡り県道 293 号線と交わるまでは、桔梗が原と呼ばれ、昔からブドウの産地であった、現在はワイン造りが進みワイナリーも多数ある。最近では垣根仕立て（？）のヨーロッパでよく見る生産法のワイン用ぶどう畑が増えてきた。洗馬小学校横を通り、塩尻市と朝日村の境近くを左折すると、南に長い谷（小曾部）があり、谷の奥にそば屋、さらに奥に「木曾義仲の馬の足跡」があり、まだ奥もありそう。県道 292 号線は朝日村に入り、御馬越までで終点になるが、ここにも「義仲公園」があった。木曾義仲については県内のいろいろな場所で見かけるのだが、機会あればまとめて見たい。いろいろな場所としては、丸子町付近では挙兵の地（依田城）、鬼無里では北陸に抜けた道、木曾福島の興禅寺の墓、木曾町日義の義仲館と徳音寺等である。



県道 293 号（上今井洗馬停車場線）は、県道 298 号線の今井郵便局横を起点として洗馬駅までの路線である。上今井の集落を抜けると塩尻市岩垂（岩垂原）に入る。ここから岩垂集落までの区間は一面に野菜畑が広がる。岩垂集落から小曾部川の谷を降りて登ると洗馬小学校前の交差点に出る。南下すると歴史を感じる本洗馬地区に入る、「洗馬焼」の焼き物の資料館（本洗馬歴史の里資料館・釜井庵）があり、一度訪れた。奈良井川の谷を降りて登ると県道 294 号と交わり、県道 294 号と重複して洗馬駅まで行く。



県道 294 号（原洗馬停車場線）は、全線善光寺街道の路線で、途中に郷原宿があり、今でも宿場の建物（写真）が残っている、友達の家もその一つで一度見に行った時があり、梁の頑丈さに驚いた事や、文化財として改装も出来ないとぼやいていた事を思い出した。国道 19 号線のえびの子大橋交差点から始まり、すぐに広丘原新田に入る。県道 25 号と交差し進むと広丘堅石に入り、さらに進むと広丘郷原・郷原宿中心に到達する。郷原工業団地を通り、さらに県道 292 号と交差し、県道 293 号線とも交わり、善光寺街道の起点でもあり、中山道との交点でもある

分岐点に達する。中山道を少し走って洗馬駅で終点となる。

県道 298 号（土合松本線）は、朝日村小野沢字土合（県道 292 号交点／信号無交差点）から県道 48 号交点である川東交差点（もしくは南荒井西交差点）までの路線。松本市今井地区と朝日村西洗馬地区を走る。今井地区には「道の駅今井恵の里」があり、横に室内のテニスコートが一面あり、冬にたまに利用する。

県道 25 号「N053 掲載済」・県道 27 号「N042」・県道 48 号「N049」・県道 296「N042」・県道 449 号「N056」

県道 315 号・県道 320 号は次回以降の掲載。県道 441 号（穂高松本塩尻自転車道）は機会あれば掲載だが、筑摩野では奈良井川沿いに部分的に設けられている。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/aijiki/saijikihome.htm>